

評価項目	領域	中期目標	短期目標	成果・取組指標		評価基準：A良い Bやや良い Cやや悪い D悪い		自 己 評 価				外 部 評 価		改 善 策		
				取組指標	成果指標	資料	評価	達 成 状 況	評 価	考 察	評 価					
												評 価	評 価			
① 教 育 課 程 ・ 学 習 指 導	教育課程の編成・実施・授業時数状況	本校の伝統を生かし、地域の要請に応え、学校教育目標の具現化を目指し、調和のとれた創意ある教育活動を展開する。(要覧)	学習指導要領のねらいを達成するために適宜評価を行う。	授業評価を授業の改善に生かす。		評規	授業評価を授業の改善に生かす	1	B	概ね評価結果までは考察した。結果を改善に向けて活用したが、すべてできたわけではない。	B	授業評価の結果を殆どの教員が肯定的に受け止めて、授業の改善に向けて生かしている姿勢は評価できる。加えて評価項目の改善の必要性についての指摘は炯眼である。生徒たちからの人気取りに随してはならない。	B	授業評価アンケートの項目を、より授業改善に活用しやすい項目になるよう改善検討を行う。また、年間計画を通じた評価計画を作成し、評価が以後の指導に生かせるよう体系づくりを行う。		
						A	授業評価を定期的を実施し、その結果を授業改善に生かした									
						B	授業評価を実施し、その結果を考察した									
						C	授業評価を実施した									
						D	授業評価を実施しなかった									
						評規	行事ごとの評価結果を公表する								B	HPを使って体育祭、修学旅行、文化祭の保護者・地域アンケートの集計を公表した。3学期は、本校の取組等の保護者・地域アンケートの集計を公表する予定である。
						A	行事ごとの評価結果を全てHPや校報を通じて地域や保護者に公表した									
						B	行事ごとの評価結果の一部をHPや校報を通じて地域や保護者に公表した									
			C	行事ごとの評価結果の一部を校報を通じて地域や保護者に公表した												
			D	行事ごとの評価結果を地域や保護者に公表しなかった												
			評規	年度末までに、次年度の全体計画を作成する	2	B	職員会で年度内に全体計画を改善し、完成させるための流れを示した。本年度中に次年度に向けての計画の修正立案の準備を進めている。職員アンケートでも80%以上が年度内に来年度の全体計画案を完成する見通しをもっている。									
			A	評価結果を生かして全ての全体計画の見直しを行い、年度内に作成した												
			B	評価結果を参考に全体計画の一部を改善し、年度内に作成した												
			C	評価結果を参考に全体計画の見直しを行った												
			D	全体計画の見直しを行わなかった												
			評規	年度末までに改善策を講じ、指導計画の見直しを行う	3	B	同上									
			A	評価結果を生かして全ての指導計画の見直しを行い、年度内に作成した												
			B	評価結果を参考に指導計画の一部を改善し、年度内に作成した												
			C	評価結果を参考に指導計画の見直しを行った												
			D	指導計画の見直しを行わなかった												
評規	毎週時数集計を行い、年間を通して全教科の予定時数を確保する	B	B	必修教科は自習が5%未満で、週報を毎週作成し、計画的な授業運営を行った。3月末までに十分授業時数の確保ができる見込みである。												
A	全ての週で週報を作成し、課題や自習時間がなく全ての教科の授業時数が確保された															
B	全ての週で週報を作成し、課題や自習時間がほとんどなく、年間授業時数が確保された															
C	週報を作成し、課題や自習時間がほとんどなかった															
D	課題や自習時間が多かった															
評規	行事ごとに評価、改善を実施し、次年度の行事精選を行う	B	B	学年行事の精選については、行事ごとの評価に基づいて見直しを行い、更なる精選を進められたい。												
A	計画的に全ての行事で評価を実施し、次年度の行事を精選した															
B	計画的に行事の評価を実施し、行事計画の見直しを行った															
C	行事での評価を数回実施し、見直しを行った															
D	行事での評価を実施した															

評価項目	領域	中期目標	短期目標	成果・取組指標		評価基準：A 良い B やや良い C やや悪い D 悪い		自 己 評 価 外 部 評 価				改 善 策	
				取組指標	成果指標	資料	評価	達 成 状 況	評 価	考 察	評 価		
													評 価
① 教 育 課 程 ・ 学 習 指 導	確かな学力の育成	意欲的に学習に取り組む生徒を育成するために、授業の充実、改善、創意ある学習指導の在り方を考える。特に、基礎的・基本的事項の定着、学習過程に於ける変容、心情の把握に努めた指導を工夫する。(要覧)	授業や教材を工夫し、授業の改善に努める。	研究授業・研究協議を定期的に行い、授業の改善を図る。	評規	研究授業・研究協議を定期的に行い、授業の改善を図る	4	B	研究授業・研究協議を計画的に行い、授業力向上についての肯定的評価は概ね良いであった。	B	生徒たちに対する2回の調査で「学習内容は理解できた・大体理解できた」とともに9割前後を占めており、授業力の向上について、教師の力量は安定的に高まっていると判断する。	B	全教員一斉の研究授業は、他学級が課題学習となるため実施しづらい面がある。2グループに分けての授業協議、また、その成果の効率的な伝達の方策を図る。
					A	研究授業・研修協議を計画的に実施し授業力が向上した							
					B	研究授業・研修協議を計画的に実施した							
					C	研究授業・研修協議を実施した							
					D	研究授業・研修協議ができなかった							
			自主学習ノートや家庭学習の課題を与えることで、学習習慣の定着を図る。	自主学習ノートや家庭学習の課題を与えることで、学習習慣の定着を図る。	評規	計画的に課題を与え、点検指導を行う	5	B	家庭学習の課題をほとんどの教科で与えているが、確実な点検指導までは至っていない。	B	生徒の家庭学習時間を増やすには、各教科で家庭学習の課題を与えれば確実に増加していくことが実証された。教師の熱意と指導如何にかかっているということである。教科での課題指導に加えて、「自主学習ノート」等の指導まで為されており、その熱意を高く評価する。	B	家庭学習習慣の定着を図るため、教科単位の指導にせず学年単位での取組で行う。特に、習慣がついていない生徒への個別指導に重点をおく。
					A	計画的に課題を与え、確実に点検指導を行った							
					B	計画的に課題を与え、点検を行った							
					C	随時課題を与えた							
			家庭学習の習慣が定着する	家庭学習時間が1時間以上を目指す。	評規	家庭学習の習慣が定着する	6	B	教科課題以外、自主学習ノート等の指導を行った。学習時間確保として初期目標を1時間と設定した。11月の調査では1時間以上の生徒が31%であったが、課題を意識して出すと12月の調査では50%となった。	B	TT指導や個別指導、補充指導に実際に教員の8割以上が取り組まれたこと、わけても免許以外の教科へも挑戦され指導に当たられたことは、その意欲に感心する。出来得れば数回の実施でなくて、年間指導計画のもと、組織的に展開されることを希望する。	B	平成19年度は学級減2、教員減2である。時数的には若干の時間的余裕が生ずると思える。年間を通したTT指導を計画に取り込み、授業の中で支援の必要な生徒への対応、また、個別指導や補充指導の充実を図る。
					A	生徒の家庭での平均学習時間が1時間以上							
					B	生徒の家庭での平均学習時間が40分～1時間未満							
					C	生徒の家庭での平均学習時間が20分～40分未満							
			TT指導や個別指導、補充指導を行う。	TT指導や個別指導、補充指導を行う。	評規	TT指導や個別指導、補充指導を行う	7	B	教員全員、学習規律・学び方について意識して授業を行った。	B	各クラスルームの前部壁面には「学習の約束6か条」が掲示されており、生徒たちへ学習の意識付けが常時為されている。またクラスによっては、「生徒一人一人の決意や目標」が掲示されており、学習規律の高揚は図られている。生徒たちは優れた指導者のもとにあり幸運である。	B	学習をより効果的に高めるには、学び方を理解し、身につけることが必要である。継続的に学び方の定着を図る。
					A	授業中評価を計画的に実施し、定期的に学習の約束の意識付けに取り組んだ							
					B	授業評価を数回実施し、その結果を生かして学習の約束の意識付けに取り組んだ							
					C	学習の約束の意識付けに取り組んだ							
			学びの意義を理解し、学び方についての定着を図る。	授業における約束や学習規律をきちんと行い、共に学ぶ姿勢を育てる。	評規	学習の約束を常に指導し、意識付けに積極的に取り組んだ	7	B	教員全員、学習規律・学び方について意識して授業を行った。	B	各クラスルームの前部壁面には「学習の約束6か条」が掲示されており、生徒たちへ学習の意識付けが常時為されている。またクラスによっては、「生徒一人一人の決意や目標」が掲示されており、学習規律の高揚は図られている。生徒たちは優れた指導者のもとにあり幸運である。	B	学習をより効果的に高めるには、学び方を理解し、身につけることが必要である。継続的に学び方の定着を図る。
					A	授業中評価を計画的に実施し、定期的に学習の約束の意識付けに取り組んだ							
					B	授業評価を数回実施し、その結果を生かして学習の約束の意識付けに取り組んだ							
C	学習の約束の意識付けに取り組んだ												
D	学習の約束の意識付けに取り組まなかった												

評価項目	領域	中期目標	短期目標	成果・取組指標		評価基準：A 良い B やや良い C やや悪い D 悪い		自 己 評 価 外 部 評 価				改善策	
				取組指標	成果指標	資料	評価	達成状況	評価	考察	評価		
													資料
① 教 育 課 程 ・ 学 習 指 導	言語教育の 推進	読書習慣を 身につけ、 正しい言語 生活のでき る環境をつ くる。(全 体)	正しい会話を 交わすこと ができる。	授業や朝終 礼などを通 して、正しい 話し方の充 実を図る。	評規	授業や朝終礼などを通して、正しい話し方の充実を図る	8	B	全学級でスピーチ活動を行っている。教科学習では教科の特性もあり指導に差がある。	B	若い世代を中心にして、近年の日本人の言語生活が貧弱になったと指摘されてすでに久しい。時代的要請を受けた極めて重要な分野である。	A	日常会話は円満な人間関係を築く上で大切な要因であり、全教育活動の中で適正な言葉指導を行っていかなくてはならない。そのため、教科学習の中に、意図的に話す学習を設定する。
					A	話す学習（スピーチ、発表など）を数回実施し、話し方が向上した							
					B	話す学習を数回実施した							
					C	話す学習を実施した							
				D	話す学習を実施しなかった								
				評規	正しい話し方の指導を行い、話し方が向上する	9	A	相手や時と場に応じた言葉づかいをしたと自分自身を評価していた者は83%であった。					
				A	調査で肯定的評価が80%以上								
				B	調査で肯定的評価が60%以上～80%未満								
			C	調査で肯定的評価が40%以上～60%未満									
			D	調査で肯定的評価が40%未満									
			適宜表現指導を行い、ノートや掲示物作成に生かす。	評規	適宜表現指導を行い、ノートや掲示物作成に生かす	10	B	全教科で授業ノートの提出・点検を実施した。					
				A	創作学習やノート点検等を適宜実施し、ノート、掲示物の作成力が向上した								
B	創作学習やノート点検を数回実施した												
C	創作学習やノート点検を実施した												
D	創作学習やノート点検を実施しなかった												
場に応じた適切な表現ができる。	ノート整理についての生徒の肯定的評価が80%以上を目指す。	評規	授業ノートの点検指導を行い、ノートのまとめ方が上達する	11	B	板書内容はきちんと写しているが、それ以上の工夫はなかなかできていない。							
		A	調査で肯定的評価が80%以上										
		B	調査で肯定的評価が60%以上～80%未満										
		C	調査で肯定的評価が40%以上～60%未満										
D	調査で肯定的評価が40%未満												
豊かな思考をすることができる。	適宜読書指導を行い、読書量向上を図る。	評規	適宜読書指導を行い、読書量向上を図る	A	朝礼前の10分を読書タイムとし、読書習慣の向上に努めた。日々読書ノートに感想を記入させた。それを毎月点検し、言葉がけのコメントを書き加えた。								
		A	読書ノートを毎月点検し、読書量が向上した										
		B	読書ノートを毎月点検した										
		C	読書ノートを点検した										
	D	読書ノートを点検しなかった											
	朝読書を充実させ、読書ノートの終了が30%以上を目指す。	評規	適宜読書指導を行い、読書量向上を図る	A	感想を記したノートをほぼ7割の生徒が1冊を終えようとしている。自分の思いを記することができるようになってきている。								
		A	読書ノート1冊終了30%以上										
		B	読書ノート1冊終了20%以上～30%未満										
C		読書ノート1冊終了10%以上～20%未満											
D	読書ノート1冊終了10%未満												
A	映像文化の爛熟時代の渦中であって、読書離れが叫ばれて、これまた久しい。そのような中、「読書タイム」を創設された見識を高く評価したい。	A	読書指導を継続して行う。その中で豊かな感性、思考力を培う。										
				「読書ノート」の1冊終了者が7割もいることは感嘆の一語に尽きる。高く評価する。									

評価項目	領域	中期目標	短期目標	成果・取組指標		評価基準：A 良い B やや良い C やや悪い D 悪い		自 己 評 価 外 部 評 価				改善策	
				取組指標	成果指標	資料	評価	達成状況	評価	考察	評価		
													評
① 教 育 課 程 ・ 学 習 指 導	環境教育の推進	環境に対する豊かな感受性と見識に基づいて、環境問題の解決に必要な確かな判断と自分なりの意思決定ができる能力や態度を育成する。(全体)	環境に積極的に働きかけ、環境問題を解決できる能力を育成する。	各教科で環境に対する理解が深まる授業を展開する。	評規	各教科で環境に対する理解が深まる授業を展開する	12	B	環境教育に関わる授業は全教科で実施できた。年間計画にもほとんどの教科で位置づけてあるが、改善策については半分の教科でしか立案できなかった。特に国語科で行った標語づくりでは、1月より山陰中央新報で掲載されている。	B	環境問題は地球規模から身の回りのごみ問題まで、現代人にのしかかっている重い課題である。全教科で計画的に実施され、就中国語科の指導のもと、ラムサール条約登録1周年を記念した山陰中央新報紙上の企画に、本校生徒の「環境標語作品」が1か月以上にわたって掲載された。本校からの情報発信であり、その実践を高く評価する。	A	評価の指標については再考をする。環境問題、人間と自然との共存は国民的、世界的、グローバル的課題であり、構成する一員としての役割は重要である。より一層の意識の高揚、行動が求められる。年間計画のもと計画的な指導を行い、評価結果に基づき指導の改善を図る。
					A	教科の年間計画に環境に関わる学習内容を位置づけ授業を展開し、改善策を立案した							
					B	教科の年間計画に環境に関わる学習内容を位置づけ授業を計画的に実施した							
					C	環境に関わる授業を1回実施した							
					D	環境に関わる授業を実施しなかった							
			評規	道徳の時間に、生命に対する畏敬の念を高める展開を工夫する	13	B	道徳の授業の中で、計画的に指導が行われ題材・展開も工夫している。生命尊重の価値項目を諸活動と関連付けた計画、生徒に適切な題材の活用、生徒の意欲を高める展開の工夫の3項目とも概ねできていた。	B	環境教育としては、生命に対する畏敬の念よりか、むしろ自然に対する畏怖の念を高める指導を展開すべきではなからうか。自然に対する人間の傲慢ともいえる思い上がりこそ、生徒たちに教えていくべき項目であると考える。				
			A	生命尊重の価値項目を諸活動と関連付けて計画し、生徒の実態に適した題材を活用した授業を実施した									
			B	生徒の実態に適した題材を活用した、生命尊重の価値項目に関する授業を実施した									
			C	生命尊重の価値項目に関する授業を実施した									
			D	授業を実施しなかった									
			評規	生徒会を中心にボランティア活動を定期的実施する。	別紙記載（福祉教育の推進を参照）								
			A										
			B										
C													
D													

評価項目	領域	中期目標	短期目標	成果・取組指標		評価基準：A 良い B やや良い C やや悪い D 悪い		自 己 評 価		外 部 評 価		改善策	
				取組指標	成果指標	資料	評価	達 成 状 況	評 価	考 察	評 価		
													改 善
① 教 育 課 程 ・ 学 習 指 導	特別活動の 推進	望ましい集団生活を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てると共に、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。(全体)	学級の諸問題等進んで話し合ったり、意見を出し合ったりして、正しい判断で解決しようとする。	自分の思いや考え、係からの連絡等を伝え合う機会を積極的に確保する。	評規	朝終礼での運営やスピーチ活動の向上を図る	14	C	2学期末にスピーチ活動の評価を行ったが、定期的を実施することはできていなかった。	B	学校教育を卒えた後、社会の中で生活していく上で、公民として身に付けておかねばならない謂わば、スキルの教育である。「朝終礼での進行やスピーチ活動がきちんとできた」という生徒が80%を超えていることは、素直に評価したい。学級が抱えている諸課題等を解決するために、話し合いスキルの向上を目指した発言・活動が今後とも持続されていくことを期待する。	B	自己を表現する能力、話し合いの場を節度あるものにしたり、集団を高め、民主的な精神を養う上で重要なものである。時間確保を行う中で、継続的に学級活動の充実を図る。
					A	朝終礼や学活の時間についての反省を定期的実施し、改善した							
					B	朝終礼や学活の時間についての反省を定期的実施した							
					C	朝終礼や学活の時間についての反省を実施した							
					D	朝終礼や学活の時間についての反省を実施しなかった							
				朝終礼の運営やスピーチが人前できちんとできる。	評規	朝終礼での運営やスピーチ活動がきちんとできる	15	A	生徒の自己評価で80%がきちんとできたと評価しているが、その判断レベルの高低の指導の必要性も感じた。				
					A	朝終礼や学活の時間の肯定的評価が80%以上							
					B	朝終礼や学活の時間の肯定的評価が70%以上～80%未満							
					C	朝終礼や学活の時間の肯定的評価が60%以上～70%未満							
				学級が当面している課題等を解決するため、話し合い活動の充実を図る。	評規	学級会、班長会を定期的に行い、学級の改善を図る	16	B	学級づくりのためほぼ計画的に学級会、班長会をすることができた。				
					A	学級会・班長会等計画的に実施し、改善を図った							
					B	学級会・班長会等計画的に実施した							
C	学級会・班長会等時々実施した												
学級会などの話し合い活動で、積極的に発言・活動ができる。	評規	学級会など学級の話し合い活動では、積極的に発言・活動できた。	17	B	概ね学級での話し合い活動により生活を振り返ったり、考えることができた。								
	A	積極的に発言・活動でき、学級の雰囲気が高まった											
	B	概ね積極的に発言・活動できた											
	C	一部の者は積極的に発言・活動できた											

評価項目	領域	中期目標	短期目標	成果・取組指標		評価基準：A 良い B やや良い C やや悪い D 悪い		自 己 評 価		外 部 評 価		改善策			
				取組指標	成果指標	資料	評価	達 成 状 況	評 価	考 察	評 価				
													改 善	策	
① 教 育 課 程 ・ 学 習 指 導	特別活動の 推進	望ましい集団生活を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てると共に、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。(全体)	生徒会スローガンをもとに、生徒の主体的な活動を推進する。 生徒会活動に積極的に参加し、学校生活の向上を目指す。	生徒会スローガンをもとに、生徒の主体的な活動を推進する。	評規 専門部指導を計画的に行い、生徒の主体的な取組や活動の改善を図る	18	B	反省は定期的に行った。具体的な改善策を立案するまでには至っていない。	B	最後まで責任を持って取り組んだと認識している生徒がほとんどであるが、教員の自己評価で充分でないという評価があった。	B	生徒会活動などの仕事を分担し活動を行うことは、社会制度の基本的構造、分業を学習するものである。日常活動の評価を積み重ねる中で、それぞれに応じた力をつけるように指導を深める。			
					A 各専門部の反省を定期的に行い、改善策を立案した										
					B 各専門部の反省を定期的に実施した										
					C 各専門部の反省を実施した										
					D 各専門部の反省を実施しなかった										
					評規 専門部の活動に責任を持って取り組む								19	B	概ね責任もって活動できたと判断できた生徒が大半であったが、充分とはいえない。
					A 専門部の活動を責任もって行っている生徒が80%以上										
					B 専門部の活動を責任もって行っている生徒が70%以上～80%未満										
			C 専門部の活動を責任もって行っている生徒が60%以上～70%未満												
			D 専門部の活動を責任もって行っている生徒が60%未満												
			主な行事では、生徒が自己評価を行い、自己の変容を確認する。	主な行事では、生徒が自己評価を行い、自己の変容を確認する。	評規 主な行事では、生徒が自己評価を行い、自己の変容を確認する	B	主な行事ごとに、その取組に対しての自己評価を数回実施した。								
					A 行事ごとの自己評価を数回実施し、取組状況が向上した										
B 行事ごとの自己評価を数回実施した															
C 行事ごとの自己評価を実施した															
D 行事ごとの自己評価を実施しなかった															
自己評価アンケートで、生徒の肯定的評価が80%以上を目指す。	自己評価アンケートで、生徒の肯定的評価が80%以上を目指す。	評規 主な行事では、自己評価を行うことで自己を振り返り、変容を確認する	B	体育祭、文化祭については、生徒の大半は達成感を抱いている。ただ、体育祭では強くまとまる意識、文化祭では見通しをもった計画に80%以上の肯定的評価を得ることができなかった。											
		A 調査で肯定的評価が80%以上													
		B 調査で肯定的評価が70%以上～80%未満													
		C 調査で肯定的評価が60%以上～70%未満													
D 調査で肯定的評価が60%未満															

評価項目	領域	中期目標	短期目標	成果・取組指標		評価基準：A良い Bやや良い Cやや悪い D悪い		自己評価				外部評価		改善策
				取組指標	成果指標	資料	評価	達成状況	評価	考察	評価			
												評価	評価	
① 教 育 課 程 ・ 学 習 指 導	総合的な学習の時間の推進	自ら課題を見つけ、主体的に解決することができる力を身につけた生徒の育成を図る。(全体)	福祉問題について課題を持ち、学習を通して積極的に課題を解決しようとする。	自分の課題について体験をもとに考え、解決を図ろうとする。	評規	総合的な学習では、生徒が自ら課題を見つけ解決を図る指導を行う	20	A	定期的な点検指導ができた。	A	自分で課題を見つけ解決できたと判断している生徒が大半であるが、2割の生徒が不十分であると答えている。	B	課題意識を持ち、それを追究し解決する経験、そのプロセスを体感することは、生きる上での貴重である。そのため見直しをもって課題追究ができるよう学習過程の改善や見直しを図る。また、生徒それぞれがもった課題意識が継続でき、それを解決できるよう支援策を立案する。	
					A	定期的なワークシートを提出させ点検指導した								
					B	定期的なワークシートを提出させた								
					C	ワークシートの提出を時々させた								
					D	ワークシートの提出をさせなかった								
				自らの課題を見つけ、解決する。	評規	総合的な学習では、生徒が自ら課題を見つけ解決を図る	21	B	自分で課題を見つけ、解決することができた					
					A	自分で課題を見つけ、解決することができた								
					B	自分で課題を見つけ、助言をもらいながら解決することができた								
					C	助言をもらい、課題を見つけることができた								
				課題に対し自分の考えをまとめ、みんなの前で発表する。	評規	総合的な学習でまとめたことをみんなの前で発表できるようにする	22	A	発表に向けて、計画的に内容を点検指導した					
					A	発表に向けて、内容的に内容を点検指導した								
					B	発表に向けて、内容を点検指導した								
C	まとめ方を時々指導した													
D	まとめ方の指導ができなかった													

評価項目	領域	中期目標	短期目標	成果・取組指標		評価基準：A 良い B やや良い C やや悪い D 悪い	資料		自己評価		外部評価		改善策				
				取組指標	成果指標		資料	評価	達成状況	評価	考察	評価					
① 教 育 課 程 ・ 学 習 指 導	総合的な学習の時間の推進	自ら課題を見つめ、主体的に解決することができる力を身につけた生徒の育成を図る。(全体)	進路について真剣に考え、よりよい将来の生き方に役立てようとする。	自らの生き方を職場体験・訪問を通して考えようとする。	評規	次年度の総合的な学習(生き方)の計画を作成する			B								
					A	今年度の反省をもとに、次年度の生き方学習の計画を作成した											
					B	次年度の計画を作成した											
					C	今年度の活動の見直しを実施した											
						D	今年度の活動の見直しができなかった										
				課題を持って職場体験に取り組む。	評規	職場体験に課題を持って積極的に取り組む	職場体験アンケート(別紙)	A									
					A	生き方学習としての活動に積極的に取り組む生徒が80%以上											
					B	生き方学習としての活動に積極的に取り組む生徒が70%以上～80%未満											
			C		生き方学習としての活動に積極的に取り組む生徒が60%以上～70%未満												
					D	生き方学習としての活動に積極的に取り組む生徒が60%未満											
			職業や仕事の世界を、自らと対比させながらまとめ表現する。	評規	生き方学習について計画的に実施する	23	B										
				A	生き方についての学習を計画的に実施し意識向上を図った												
				B	生き方についての学習を計画的に実施した												
				C	生き方についての学習を実施した												
					D	生き方についての学習ができなかった											
			職場体験でのまとめや発表を工夫して行う。	評規	職場体験での体験のまとめや発表の仕方を工夫する	24	B										
A	まとめ方・表現の仕方に工夫ができた																
B	自分でまとめ、表現することができた																
C	自分でまとめることはできたが、うまく表現できなかった																
		D	自分でまとめることができなかった														
ふるさとを理解し、自らの生き方に役立てようとする態度を育成する。	別紙記載(ふるさと教育の推進を参照)	評規															
		A															
		B															
		C															
		D															

評価項目	領域	中期目標	短期目標	成果・取組指標		評価基準：A良い Bやや良い Cやや悪い D悪い	資料		自己評価		外部評価		改善策	
				取組指標	成果指標		資料	評価	達成状況	評価	考察	評価		
① 教 育 課 程 ・ 学 習 指 導	ふるさと教育の推進	ふるさとに学び、社会と共に生きる生徒を育成する。(全体)	ふるさとへのふりかえり、ふるさとを大切にする態度を育てる。(1年)	地域の“ひと、もの、自然”とのふれあいを大切にする態度を育てる。		評規	地域とのふれあいを大切にし、ふるさとを大切にする態度を育てる			年間計画を変更して取り組んだ部分もあったが、充実した活動を行った。	B	ふるさとへの良さを感じるには、ふるさとにふれ合う基本的なことは達成されている。	B	1年ではふるさとを知る、2年でふるさとを外から見る、3年でよきを見つけた情報発信するというプロセスを構築して取り組んでいるが、各学年の取組において、その深まり、3年間見通した課題追究について検討を深める。
						A	年間計画に地域とふれ合う活動を位置付け、ふるさとに関するレポートが丁寧な作成された							
						B	年間計画に地域とふれ合う活動を位置付け、ふるさとに関するレポートが作成された							
						C	地域学習を行い、ふるさとに関するレポートが作成された							
			D	レポートが作成できなかった										
			評規	修学旅行の見聞とふるさとを対比させ、レポートをまとめる			計画的に進めることができた。また、ふるさととの対比まではできなかったが、修学旅行の見聞を十分にふまえたレポート作成ができた。旅行レポートは、ふるさとを充分意識したものであった。	B	井の中の蛙でなく、幅広い視野でふるさとを感じることを意識している。					
			A	計画的に修学旅行の取組を行い、桜江町と比較してのレポート作成ができた										
			B	計画的に修学旅行の取組を行い、レポートを作成した										
			C	修学旅行のレポート作成を行った										
			D	レポートが作成できなかった										
			評規	ふるさとについて各自の課題を設定し考えをまとめ、ふるさとへ情報発信する			毎回レポート作成をすることができたが、3年間の見通しがもてなかった。	B	3年間の学習の積み重ねを活用してふるさとを活気づかせる情報発信を目指すことを考えれば、より良いものになったと考える。					
			A	3年間の学習をもとに、ふるさとに関するレポートを作成し、情報発信した										
B	3年間の学習をもとに、ふるさとに関するレポートを作成した													
C	ふるさとに関するレポートを作成した													
D	レポートが作成できなかった													

評価項目	領域	中期目標	短期目標	成果・取組指標		評価基準：A 良い B やや良い C やや悪い D 悪い	自 己 評 価				外部評価	改善策		
				取組指標	成果指標		資料	評価	達成状況	評価			考察	評価
生 徒	人権・同和教育の推進	認め合い、助け合っ て、あらゆる差別を許さぬ態度と自己の人生を自らの力で切り開いていこうとする態度を持った生徒を育成する。(全体)	自他の人権を尊ぶと共にそれぞれの個性や立場を尊重し、協力し合えるような生徒を育成する。	道徳や他の教科で、人権・同和教育上の視点を当てた授業を実施する。	評規	道徳や、他の教科で、人権・同和教育上の視点を当てた授業を実施する	25	B	不定期ではあったが、人権・同和教育に視点をあてた授業が実施できた。	B	各クラスで人権・同和教育に視点を当て、人権メッセージを作成したことは高く評価できる。	B	人権教育、同和教育はあらゆる授業の中で、活動の中で継続的に行われなくてはならない。日常生活の中で、高い人権意識、不合理への気づきなどが身につくよう計画への位置づけ、機をとらえての指導の実施を図る。	
					A	道徳や他の教科で人権・同和教育に視点をあてた授業を定期的に実施した								
					B	道徳や他の教科で人権・同和教育に視点をあてた授業を各クラスで実施した								
					C	人権・同和教育に視点をあてた授業を担当が実施した								
				人権メッセージを生徒全員が作成する。	評規	人権メッセージを生徒全員が作成する	26	A	人権メッセージを作成する過程できちんと人権について考えることができた。	B	人権教育、同和教育はあらゆる授業の中で、活動の中で継続的に行われなくてはならない。日常生活の中で、高い人権意識、不合理への気づきなどが身につくよう計画への位置づけ、機をとらえての指導の実施を図る。			
					A	人権メッセージを全校生徒が作成し、人権について深く考えることができた								
					B	人権メッセージを全校生徒が作成し、人権について考えることができた								
					C	人権メッセージを作成した								
			生徒会本部を中心とした人権集会を実施する。	評規	生徒会本部を中心とした人権集会を実施する	27	A	身近ないやがらせをロールプレイで取り上げたり、いじめに関するメッセージの発表を通して自分の事としてとらえることのできた生徒が多かった。	B	生徒会本部を中心とした人権集会の実施を通して、一人一人が自分の問題として自覚した様子が見える。				
				A	人権集会で生活の中から事例を取り上げ、自分の事としてとらえ差別を許せない思いをもてた									
				B	人権集会で差別を許さないという思いをもてた									
				C	人権集会を実施した									
県の人権・同和教育資料集をもとに、定期的に職員研修を実施する。	評規	県の人権・同和教育資料集をもとに、定期的に職員研修を実施する	27	B	県第2集や人権・同和教育主任者研修の資料をもとに中身の濃い研修が実施できた。	B	生徒会本部を中心とした人権集会の実施を通して、一人一人が自分の問題として自覚した様子が見える。							
	A	公開授業や資料を通して具体的事例を含んだ研修を実施した												
	B	資料を通して具体的事例を含んだ研修を実施した												
	C	職員研修を実施した												
指 導	人権・同和教育の推進	学力向上と進路保障のため、生徒の個別指導の充実を図る。	休憩・放課後の時間等を利用しての個別指導を徹底する。	評規	別紙記載(確かな学力を参照)	27	B	県第2集や人権・同和教育主任者研修の資料をもとに中身の濃い研修が実施できた。	B	担任が、休憩・放課後を利用して保護者との情報交換に努めたことは、保護者にとって最も頼りになる点である。	B	生徒の育ちには主体性をもって家庭が機能する必要がある。そのため、学校生活の様子、気になる事柄を積極的に保護者に伝えるよう意識付けを図る。		
				A	別紙記載(確かな学力を参照)									
				B	別紙記載(確かな学力を参照)									
				C	別紙記載(確かな学力を参照)									
			保護者との情報交換を適宜行い、進路保障に努める。	評規	保護者との情報交換を適宜行い、進路保障に努める	27	B	いろいろな事があるがらについての相談を積極的に受け、生徒の適性を考慮しながらの進路保障に努めた。	B	担任が、休憩・放課後を利用して保護者との情報交換に努めたことは、保護者にとって最も頼りになる点である。				
				A	情報交換を定期的かつ積極的に実施した									
				B	情報交換を定期的実施した									
				C	情報交換を実施した									
保護者との情報交換を適宜行い、進路保障に努める。	評規	保護者との情報交換を適宜行い、進路保障に努める	27	B	県第2集や人権・同和教育主任者研修の資料をもとに中身の濃い研修が実施できた。	B	担任が、休憩・放課後を利用して保護者との情報交換に努めたことは、保護者にとって最も頼りになる点である。							
	A	情報交換を定期的かつ積極的に実施した												
	B	情報交換を定期的実施した												
	C	情報交換を実施した												

評価項目	領域	中期目標	短期目標	成果・取組指標		評価基準：A良い Bやや良い Cやや悪い D悪い		自 己 評 価 外 部 評 価							
				取組指標	成果指標	資料	評価	達成状況	評価	考察	評価	改善策			
													資料	評価	達成状況
② 生 徒 指 導	道徳教育の推進	学校教育活動全体を通して、生徒の生き方についての自覚を高め、道徳的実践力を高める。(全体)	人間として望ましい自己の形成と、自他の人間関係の育成を図る。	学級の係活動の活性化により人間関係の育成を図る。	評規	学級活動の充実を図ることを通して、人間関係の育成を図る	28	A	学級の中で誰もが役割を分担している。生徒が相互に関わりをもつ場面を学級活動や諸行事と関連づけ計画的に取り組んだ。その活動で多くの者が活動のよさや価値を考えることができた。	A	学校行事や授業等の参観を通して、生徒たちに人間として望ましい自己の形成と、自他の好ましい人間関係の形成が進んでいることが垣間見られ、本校の道徳教育の充実度が感じられる。	A	ミニ社会としての学校生活でいろいろなることを身につけている。引き続き、学級や生徒会活動、学校行事などを通して、望ましい自己の形成、人間関係づくりを計画的に図っていく。		
					A	生徒一人一人が学級の中で役割を持ち、責任を持って積極的に活動した									
					B	生徒一人一人が学級の中で役割を持ち積極的に活動した									
					C	生徒が自分の役割を果たした									
				D	学級の係活動がきちんとできなかった										
				評規	人間として望ましい自己形成と、自他の人間関係ができる	29	A	望ましい自己形成と自他の好ましい人間関係に関する調査で、肯定的評価が80%以上であった。							
				A	調査で肯定的な評価が70%以上										
				B	調査で肯定的な評価が60%以上～70%未満										
			C	調査で肯定的な評価が50%以上～60%未満											
			D	調査で肯定的な評価が50%未満											
			徒	道徳教育の推進	自然を愛し、生命を尊び、美しいものや崇高なものに触れ、人間としての自覚を深める。	目標にかなう道徳の教材開発を行う。	評規	各学年で、目標にかなう道徳の教材開発を行う	30	C	副読本を活用しての指導を行った。	B	目標にかなう教材の開発を独自に行い、授業を展開するということは至難なこと。副教材を十二分に活用することで目標に迫れるのではないかと。肯定的評価が80%以上であったことが如実にこのことを示している。	B	自己を見つめ、自分たちの生活を考えることは社会生活を営む上で重要である。道徳の指導においては、副読本を十分に活用しねらいに迫る授業展開を工夫する。また、深化を図るための資料収集、教材開発に努める。
							A	目標にかなう題材を自分で開発し、授業を展開した							
B	目標にかなう題材の資料収集を行い、授業を展開した														
C	目標にかなう題材を使った授業を展開した														
D	資料収集や題材開発ができなかった														
評規	自然を愛し、生命を尊び、美しいもの、崇高なものに触れ、人間としての自覚を深める	31				A	自然を愛することなどを通して人間としての自覚を深めるに関する調査で、肯定的評価が80%以上であった。								
A	調査で肯定的な評価が70%以上														
B	調査で肯定的な評価が60%以上～70%未満														
C	調査で肯定的な評価が50%以上～60%未満														
D	調査で肯定的な評価が50%未満														
指	道徳教育の推進	国際社会に生きる日本人としての自覚に立ち、民主的で文化的な国家及び国家の成員として必要な道徳性を身につける。	国際理解教育を推進するための指導計画を立てる。	評規	国際理解教育を推進するための指導計画を立てる	32	A	多くの教科や道徳の中で計画され、指導も実施されている。	A	多くの教科や道徳の中での指導のみならず、日常の学校生活の中で常時、掲揚されている国旗を生徒たちが目にすることは、国際社会に生きる日本人としての自覚を持たせ、国家の成員としての必要な道徳性を身に付ける上で、計り知れない感化を及ぼしているものと捉える。	A	国際人としての自覚の育成には、郷土を知ること、そのよさを気づき、それと対比させることで他国が分かり国際人としての自覚が生まれる。そのため、積極的に地域の行事への参加を促し、地域社会とのつながりや物事を見たり考えたりできるよう指導を行う。			
				A	各領域において国際理解と日本人の自覚を高める指導を計画的に位置づけ実施した										
				B	各領域において国際理解と日本人の自覚を高める指導を実施した										
				C	道徳の授業の中で国際理解と日本人の自覚を高める指導を実施した										
			D	国際理解に関する授業ができなかった											
			評規	国際人としての自覚を持ち、民主的・文化的な国家の成員としての必要な道徳性を身につける	32	A	国際社会に生きる日本人としての自覚に立つという調査で、肯定的評価が80%以上であった。								
			A	調査で肯定的な評価が70%以上											
			B	調査で肯定的な評価が60%以上～70%未満											
C	調査で肯定的な評価が50%以上～60%未満														
D	調査で肯定的な評価が50%未満														

評価項目	領域	中期目標	短期目標	成果・取組指標		評価基準：A 良い B やや良い C やや悪い D 悪い		自己評価		外部評価		改善策	
				取組指標	成果指標	資料	評価	達成状況	評価	考察			
											評		価
② 生徒指導	生徒指導の推進	生徒一人一人の人格を尊重し、生徒理解と個性の伸張を図り、人格的健康的な発達を助成し援助する。(全体)	基本的な生活習慣を育成する。	生徒会本部を中心とした挨拶運動による元気な挨拶ができるようにする。		評規	生徒会の挨拶運動を充実させる			B	毎月2週目を挨拶運動週間として実施し、全校生徒への呼びかけとした。	B	挨拶運動は形式化せずに、心からの自発的な運動への深化を目指してほしい。 ノーチャイム運動は時間に対する意識が高まり、ほぼ定着していると思う。基本的な生活習慣に関するアンケートの目標達成は評価したい。
						A	計画的・定期的に挨拶運動を実施し、生徒の意欲を高めた						
						B	定期的に挨拶運動を実施し、評価、指導を行った						
						C	挨拶運動を実施し、指導を行った						
						D	挨拶運動を実施しなかった						
				評規	生活安全部の時間を大切・守る活動を充実させる	33	B	ノーチャイム運動については、生徒90%が概ね実践できたと答えている。ただ、生徒会からの呼びかけはあるが、学校側の指導によるところが大きい。					
				A	ノーチャイム運動の指導をし、生徒が自主的に呼びかけを行い、時間を意識して行動している								
				B	ノーチャイム運動の指導をし、生徒が概ね実践できている								
				C	ノーチャイム運動の指導をしているが、生徒が実践できていない								
				D	ノーチャイム運動の指導が不徹底								
				評規	基本的な生活習慣の育成を図る	34	A	基本的な生活習慣に関するアンケートでは、全項目80%以上の肯定的評価であった。					
				A	調査で肯定的な評価が80%以上								
B	調査で肯定的な評価が70%以上～80%未満												
C	調査で肯定的な評価が60%以上～70%未満												
D	調査で肯定的な評価が60%未満												

評価項目	領域	中期目標	短期目標	成果・取組指標		評価基準：A 良い B やや良い C やや悪い D 悪い	資料	評価	自己評価		外部評価		改善策
				取組指標	成果指標				達成状況	評価	考察	評価	
③ 進路指導	進路指導の推進	生徒が自己理解の上で、自ら将来の進路の選択・計画を立て、進学または就職して卒業後の生活によりよく適応し、さらに進歩するよう努力する態度と能力を育成する。(全体)	進路指導の充実を図る。	定期的に進路相談を行う。		評規 定期的に進路相談を実施する	39	C	進路相談は実施できたが、定期的に行うことができなかった。	B	進路指導を充実させることで生徒の選択肢を拡大させ、適性に気づかせる機会にしてほしい。生徒自身の才能を見つけ出す機会とし、どのような分野で国家・社会に貢献できるのか考える時間を与えてほしい。	B	進路についての指導は3か年を見通した計画が必要で、学年に応じたシステムだった指導を展開する。また、教育再生会議で述べられている公の精神、職業人として国家・社会に貢献しようとする意識や態度についても計画的に指導する。
						A 進路相談を定期的実施し、改善策を立案した							
						B 進路相談を定期的実施した							
						C 進路相談を実施した							
						D 進路相談を実施しなかった							
				進路講話を行い、将来の生き方を考える機会とする。		評規 進路講話を計画的に実施する	B	卒業講話も含めて3回の進路講話を実施した。					
						A 進路講話を計画的に実施し、改善策を立案した							
						B 進路講話を計画的に実施した							
						C 進路講話を実施した							
				進路講話が将来の生き方の参考になる	進路講話が生徒の生き方にとって、大いに参考になる。	評規 進路講話が将来の生き方の参考になる	進路講話アンケート(別紙)	B	将来仕事をするときの参考となったとする生徒の肯定的評価は、1回目の講話が91%、2回目79%だった。				
						A 進路講話アンケートで肯定的評価が80%以上							
						B 進路講話アンケートで肯定的評価が70%以上～80%未満							
C 進路講話アンケートで肯定的評価が60%以上～70%未満													
D 進路講話アンケートで肯定的評価が60%未満													

評価項目	領域	中期目標	短期目標	成果・取組指標		評価基準：A 良い B やや良い C やや悪い D 悪い		自 己 評 価		外 部 評 価		改善策				
				取組指標	成果指標	資料	評価	達成状況	状況	評価	考察					
													評価	評価		
③ 進 路 指 導	進路指導の推進	生徒が自己理解の上に立って、自ら将来の進路の選択・計画を立て、進学または就職して卒業後の生活によりよく適応し、さらに進歩するよう努力する態度と能力を育成する。(全体)	キャリア教育推進指導計画を作成する。	キャリア教育推進指導計画を作成する。	評規	キャリア教育推進指導計画を作成する	資料	評価	C	進路指導全体計画をベースに考えた。現在のところ概要まで見通しが立っているため、年度末までには作成したい。	B	職場体験を通じて、働く喜びを感じ、社会に役立つことで自分に自信を持つ教育を引き続き続けてほしい。	A			
					A	今年度の反省をもとに次年度のキャリア教育推進指導計画を作成した										
					B	キャリア教育推進指導計画を作成した										
					C	キャリア教育推進指導計画の概要を作成した										
					D	キャリア教育推進指導計画を作成しなかった										
					評規	職場体験・訪問の充実を目指す								職場体験アンケート(別紙)	A	3年生生徒全員が満足のものに答えている。
					A	職場体験を実施し、まとめを行い、次年度への改善策を立案した										
					B	職場体験を実施し、まとめ、レポートを発行した										
			C	職場体験を実施した												
			評規	職場体験学習が充実した内容となる	40	B	ほとんどの教員が随時情報提供できた。									
			A	職場体験学習アンケートでの肯定的評価が80%以上												
			B	職場体験学習アンケートでの肯定的評価が70%以上～80%未満												
C	職場体験学習アンケートでの肯定的評価が60%以上～70%未満															
評規	職場体験学習が充実したものになる。	41	C	進路情報の提供については、教員間にかなりばらつきが見られた。												
A	職場体験学習アンケートでの肯定的評価が60%未満															
評規	上級学校等の情報を生徒に適宜提供する															
A	上級学校の情報を随時提供した															
B	上級学校の情報を数回提供した															
C	上級学校の情報を一度提供した															
D	上級学校の情報を提供しなかった															
評規	懇談会、学年・学級通信等を利用して、保護者へ随時進路情報を提供する。	41	C	進路情報の提供については、教員間にかなりばらつきが見られた。												
A	進路情報を随時提供した															
B	進路情報を数回提供した															
C	進路情報を一度提供した															
D	進路情報を提供しなかった															
評規	懇談会、学年・学級通信等を利用して、保護者へ随時進路情報を提供する。	41	C	進路情報の提供については、教員間にかなりばらつきが見られた。												
A	進路情報を随時提供した															
B	進路情報を数回提供した															
C	進路情報を一度提供した															
D	進路情報を提供しなかった															
評規	懇談会、学年・学級通信等を利用して、保護者へ随時進路情報を提供する。	41	C	進路情報の提供については、教員間にかなりばらつきが見られた。												
A	進路情報を随時提供した															
B	進路情報を数回提供した															
C	進路情報を一度提供した															
D	進路情報を提供しなかった															

評価項目	領域	中期目標	短期目標	成果・取組指標		評価基準：A良い Bやや良い Cやや悪い D悪い	資料		評価		外部評価		改善策			
				取組指標	成果指標		資料	評価	達成状況	評価	考察	評価				
														自	己	評
④ 安全 全 管 理	安全対応能力の向上 (学校安全計画の推進)	自他の生命を尊重し、自ら安全な生活を営むことができる。(全体)	校内安全体制の充実を図る。	災害発生状況の情報を提供し、未然に防止するように安全管理に努める。		評規 事故発生を未然に防止するように、事前の安全管理に努める	42	A	事故発生を未然に防止するよう事前の安全管理ができた。	B	引き続き、災害発生状況を把握し安全管理に努めてほしい。	B	平成19年度に本校校舎の耐震検査が実施される。より一層校舎内外の把握に努め、危険回避に努める。			
						A 災害発生状況調査の集計を毎月報告し、安全管理の推進に努めた										
						B 災害発生状況調査の集計を毎月実施した										
						C 必要に応じて災害発生状況調査を集計した										
							安全点検を毎月15日に実施し、早めに対応する。		評規 安全点検を毎月15日に実施し、早めに対応する	43	B	安全点検の日に点検できないことがあったが、月1回は履行した。	B	引き続き、災害発生状況を把握し安全管理に努めてほしい。	B	平成19年度に本校校舎の耐震検査が実施される。より一層校舎内外の把握に努め、危険回避に努める。
				A 安全点検を毎月実施(危険箇所)に早急に対処した												
				B 安全点検を毎月実施(危険箇所を確認)した												
			C 安全点検を実施した													
						生徒の登下校の安全を確保する。	通学路調査を行い、通学路マップを作成し配布する。		評規 通学路調査を行い、通学路マップを作成し配布する		C	通学路マップとしてまとめることができなかったが、通学路の調査を生徒の入学時、進級時に実施し各家庭から学校までのルートを確認した。	B	地域との連携を図り、周辺事情の変化に伴い通学路マップの更新をお願いしたい。	B	適宜校区内の巡視や情報収集を行い、通学路等の危険箇所の把握に努める。また、通学路マップを整備し、通学状況の万が一の活用に資する。
			A 通学路調査を実施し、マップの有効活用を図った													
			B 通学路調査を実施し、マップを作成した													
C 通学路調査を実施した																
			P T Aとの連携により通学路の点検を密に行う。		評規 P T Aとの連携により通学路の点検を密に行う			B	地区懇談会、指導部会などで定期的に通学路の危険箇所を把握している。	B	地域との連携を図り、周辺事情の変化に伴い通学路マップの更新をお願いしたい。	B	適宜校区内の巡視や情報収集を行い、通学路等の危険箇所の把握に努める。また、通学路マップを整備し、通学状況の万が一の活用に資する。			
A P T Aとの連携により通学路の危険箇所を定期的に点検し早期把握した																
B P T Aとの連携により通学路の危険箇所を定期的に点検した																
C P T Aとの連携により通学路の点検を適宜実施した																

評価項目	領域	中期目標	短期目標	成果・取組指標		評価基準：A良い Bやや良い Cやや悪い D悪い	資料	評価	自 己 評 価		外 部 評 価		改善策
				取組指標	成果指標				達成状況	評価	考 察	評 価	
④ 安 全 管 理	安全対応能力の向上 (学校安全計画の推進)	自他の生命を尊重し、自ら安全な生活を営むことができる。(全体)	危機管理マニュアルの充実を図る。	危機管理マニュアルの充実を図る。	評規	危機管理マニュアルの充実を図る			C	既存のマニュアルはあるが、今年度見直しの一部しかできなかった。防災学習の事前研修で対応への共通理解を図った。	C	マニュアルは、改訂事項が発生すれば速やかに更新してほしい。避難訓練等は、消防署との連携を密にし計画的にされている。	C
					A	危険管理マニュアルの見直し改善とシミュレーションを実施した							
					B	危険管理マニュアルの見直し改善と整備体制作りを行った							
					C	危険管理マニュアルを見直し改善した							
					D	危険管理マニュアルの見直し改善が実施できなかった							
				避難訓練等を行い、マニュアルを実用的なものに改善していく。	評規	避難訓練等を計画的に実施する			B	避難経路の確認のため4月に避難訓練を実施。3学期に消防署に依頼して実施の予定である。			
					A	実践に即応できる避難訓練等を実施した							
					B	学期一回ずつの避難訓練等を実施した							
					C	避難訓練等を適宜実施した							
					D	避難訓練等が実施できなかった							
			防災学習を実施し、安全指導の充実を図る。	毎学期防災学習を実施する。	評規	毎学期防災学習を実施する			B	4月、6月、11月に実施。6月は消防署に依頼し事故時の応急処置を実習。11月は警察署に依頼し不審者に出会ったときの避難の仕方、護身術を実習した。			
					A	毎学期防災学習を実施し、安全指導を徹底した							
					B	毎学期防災学習を実施し、指導に生かした							
					C	毎学期防災学習を実施した							
					D	毎学期防災学習が実施できなかった							
				防犯教室等を開催し、危機回避能力を高める。	防犯教室等を開催し、危機回避能力を高める。	評規	防犯教室等を開催し、危機回避能力を高める		防犯教室アンケート(別紙)	B	昨年は校内への不審者侵入対応訓練を実施。今年は校外で不審者に出会ったときの対処法を実習した。		
						A	防犯教室を開催し、実践力を身につけることができた						
						B	防犯教室を開催し、自覚を促すことができた						
						C	防犯教室を開催した						
						D	防犯教室の開催が実施できなかった						
B	他校の事例や実際に起きた事件を教訓にして、引き続き不測の事態に備えた安全指導の充実を図ってほしい。												
B	年間を見通して防災学習を実施し、危険からの避難、危険回避能力、危険察知能力の育成を図る。また、マニュアルの整備を行う。												

評価項目	領域	中期目標	短期目標	成果・取組指標		評価基準：A良い Bやや良い Cやや悪い D悪い		自 己 評 価		外 部 評 価		改善策			
				取組指標	成果指標	資料	評価	達 成 状 況	評 価	考 察	評 価				
													資料	評価	達 成 状 況
⑤	保	健康安全に関する自己管理能力の形成と体力づくりの工夫を行う。(全体)	登下校の安全確保と病気や障害の自己予防の徹底を図る。	健康に関する全校活動を行い、自己予防の徹底を行う。	評規	健康に関する全校活動を行い、自己予防の徹底を行う	44	A	12月までに4回の全校活動(交通安全教室・応急処置法など)を行い、自己予防力が向上した。	A	生命をおびやかす、健康を害する病気や災害・事故の原因について理解させ、その防止と対策ならびに救急処置に必要な態度・能力・技能を今後も探求していただきたい。	A			
					A	健康に関する全校活動を数回実施し、自己予防力が向上した									
					B	健康に関する全校活動を数回実施した									
					C	健康に関する全校活動を実施した									
				D	健康に関する全校活動を実施しなかった										
				生徒の自己評価で肯定的評価が80%以上を目指す。	評規	健康に関して、自己予防に努める	44	A	生徒の健康に関する自己評価で90%以上の達成ができた。	A					
					A	健康調査で肯定的評価が80%以上									
					B	健康調査で肯定的評価が60%以上									
			C		健康調査で肯定的評価が40%以上										
			D	健康調査で肯定的評価が40%未満											
			健	保健体育活動の推進	健康安全に関する自己管理能力の形成と体力づくりの工夫を行う。(全体)	心や体の健康安全についての意識高揚や人の痛みに気づく生徒の育成を図る。	保健体育での授業を通して、心や体の健康についての知識を深める。	評規	保健での授業を通して、心や体の健康についての知識の定着を図る	45	A	心や体の健康についての態度が良くなり、知識も深まり人の痛みに気づくことができた	A	心や体の健康についての態度が良くなり、知識も深まり人の痛みに気づくことができるようになった。	A
								A	心や体の健康についての態度が良くなり、知識も深まり人の痛みに気づくことができた						
B	心や体の健康についての態度が良くなり知識も深まった														
C	心や体の健康についての態度は良くなったが知識は深まらなかった														
D	心や体の健康についての態度も知識も変化がなかった														
生徒の自己評価で肯定的評価が80%以上を目指す。	評規	保健での授業を通して、心や体の健康についての知識が定着する					45	A	心や体の健康についての生徒の自己評価で80%以上の達成ができた。	A					
	A	健康調査で肯定的評価が80%以上													
	B	健康調査で肯定的評価が60%以上													
	C	健康調査で肯定的評価が40%以上													
D	健康調査で肯定的評価が40%未満														
管	保健体育活動の推進	健康安全に関する自己管理能力の形成と体力づくりの工夫を行う。(全体)				体育祭で、生徒の主体的な活動ができるようにする。	体育祭で、生徒の主体的な活動ができるようにする。	評規	体育祭で、生徒の主体的な活動ができるようにする	46	B	体育祭を工夫し、生徒の主体的な活動が行えた。生徒の体育祭アンケートでは、どの項目も肯定的評価が70%以上であった。	B	球技大会については、今までと違い男女別で開催したことにより活気あるものとなった。今後も、さらに生徒の主体的な活動が行えるようにお願いしたい。	B
								A	生徒の主体的な活動が行えるように体育祭を工夫し、体力づくりの意識化もできた						
			B	生徒の主体的な活動が行えるように体育祭を工夫した											
			C	体育祭を工夫したが、生徒の主体的な活動とまではいかなかった											
			D	生徒の主体的な活動ができなかった											
			球技大会を工夫し、全校生徒が積極的に活動できるようにする。	評規	球技大会を工夫し、積極的な活動と体力づくりへの意識化を図る	46	B	昨年度までは縦割り男女混合で開催していたが、今年度から男女別に行った。競技性が高まり活気のある球技大会が行えた。積極的に参加できたかという点では生徒、教員アンケートの結果共に80%以上を達成することができた。	B						
				A	球技大会を工夫し、生徒が積極的に活動でき体力づくりの意識化もできた										
				B	球技大会を工夫し、生徒が積極的に活動できた										
C	球技大会を工夫したが、生徒は消極的だった														
D	球技大会の工夫を行わなかった														

評価項目	領域	中期目標	短期目標	成果・取組指標		評価基準：A良い Bやや良い Cやや悪い D悪い	資料		自 己 評 価		外 部 評 価		改善策
				取組指標	成果指標		資料	評価	達成	状況	評価	考察	
⑤ 保 健 管 理	学校保健の推進	生命の大切さを理解し、生涯を通して心身共に健康な生活を実践できる生徒を育成する。(全体)	生徒一人一人の健康状況について情報の収集と生徒理解を図る。	欠席状況の統計結果を情報として提供し、生徒理解に活用する。	評規	欠席状況の統計結果を情報として提供し、生徒理解に活用する	47	A	欠席状況の情報は生徒理解に活用できた。	A	情報を教育活動に、より活用していただきたい。	A	生徒の状況について情報の共有ができた。情報のより一層の効果的活用をめざす。
					A	欠席状況の統計結果を毎月提供し、生徒理解が向上した							
					B	欠席状況の統計結果を毎月提供した							
					C	欠席状況の統計結果を適宜提供した							
				D	欠席状況の統計結果の提供が実施できなかった								
				評規	保健室利用状況結果を情報として提供し、生徒の共通理解を図る	48	A	保健室利用状況の情報は生徒の共通理解に役立った。					
				A	保健室利用状況結果を毎月提供し、共通理解を図った								
				B	保健室利用状況結果を毎月提供した								
			C	保健室利用状況結果を適宜提供した									
			D	保健室利用状況結果の提供が実施できなかった									
			学校保健統計・疾病の治療状況統計を教育活動に活用する	評規	学校保健統計・疾病の治療状況統計を教育活動に活用する	49	A	学校保健統計等は教育活動に活用する事ができた。					
				A	健康診断結果をまとめ、教育活動に活かすことができた								
B	健康診断結果をまとめ、教職員に情報提供した												
C	健康診断結果をまとめ、適宜実施した												
D	健康診断結果のまとめが実施できなかった												
不登校傾向の生徒のファイリングを行う。	評規	不登校傾向生徒への対応を綿密に記録・報告した	50	B	不登校傾向生徒のファイリングを作成することができたが、教員の取組にはばらつきがあった。								
	A	不登校傾向生徒への対応を綿密に記録・報告した											
	B	不登校傾向生徒への対応の記録を継続的に実施した											
	C	不登校傾向生徒への対応の記録を適宜実施した											
	D	不登校傾向生徒への対応の記録が実施できなかった											
	関係機関、S C、保護者との連携を密に行う。	評規	関係機関、S C、保護者との連携を密に行う	51	B	概ね関係機関、S C保護者との連携は行うことができた。							
		A	不登校傾向生徒への対応について関係者や保護者との綿密な連携を図った										
		B	不登校傾向生徒への対応について関係者や保護者との連携を継続的に実施した										
C		不登校傾向生徒への対応について関係者や保護者との連携を適宜実施した											
D	不登校傾向生徒への対応について関係者や保護者との連携が実施できなかった												

評価項目	領域	中期目標	短期目標	成果・取組指標		評価基準：A良い Bやや良い Cやや悪い D悪い		自 己 評 価		外 部 評 価		改善策				
				取組指標	成果指標	資料	評価	達 成 状 況	評 価	考 察	評 価					
													評 規	評 規		
⑤ 保 健 管 理	学校保健の推進	生命の大切さを理解し、生涯を通して心身共に健康な生活を実践できる生徒を育成する。(全体)	学校環境の美化等情報面への配慮をする。	生徒会を中心に、校舎内・清掃点検を毎月行う。	評規	生徒会を中心に、校舎内・清掃点検を毎月行う			C	環境奉仕部の活動として戸締りやスリッパの整頓などはしているが、清掃点検は行っていない。	B	学校環境の美化について、生徒の意識をもっと高めていくよう取り組みを行ってほしい。	B	校内生活環境の整備は、生徒の学校生活の落ち着き、学習効果に大きな影響がある。生徒指導の観点からも生徒の意識を高める指導を行う。そのため、生徒会環境奉仕部の活動、全校生徒の緑化運動を計画に盛り込む。		
					A	環境奉仕部を中心に校舎内の清掃点検・美化に努めた										
					B	環境奉仕部を中心に校舎内の清掃点検を実施した										
					C	環境奉仕部を中心に校舎内の点検を適宜実施した										
						D	校舎内の清掃点検が実施できなかった									
						校内緑化運動を推進する。	評規	校内緑化運動を推進する			B	環境奉仕部の活動として苗植えや草取りなどを定期的に行っている。	B			
			A	校内の緑化運動の取組を積極的に実施した												
			B	校内の緑化運動の取組を実施した												
C	校内の緑化運動を適宜実施した															
				D	校内の緑化運動が実施できなかった											
			健康に関する正しい知識を認識させ、健康を保持増進することができる能力や健康な生活を実践していく力を身につけることができる。	保健室便りを毎月発行し、正しい健康知識の普及に努める。	評規	保健室便りを毎月発行し、正しい健康知識の普及に努める			B	保健だよりは毎月発行したが、学級での指導が不足であった。	B	保健だよりは毎月発行されたが、健康情報の活用が十分でなかった。	B	保健だよりが学級で、生徒一人一人が有効に活用してもらえるよう手立てを、また、家庭で活用してもらえるよう内容の工夫を行う。給食指導においては定期的な担当者による指導のほか、日程調整を行ってほしい。		
A	保健だよりを毎月発行し、健康推進の一助とした															
B	保健だよりを毎月発行した															
C	保健だよりを適宜発行した															
				D	保健だよりの発行ができなかった											
			給食指導を定期的に行う。	給食指導を定期的に行う。	評規	給食指導を定期的に行う			B	2学期は栄養士が多忙で指導してもらえなかったが、定期的に指導できた。	B	学級担任による給食指導は定期的に行われたが、日程調整等行い、栄養士による指導も、是非実施してほしい。	B	保健だよりが学級で、生徒一人一人が有効に活用してもらえるよう手立てを、また、家庭で活用してもらえるよう内容の工夫を行う。給食指導においては定期的な担当者による指導のほか、日程調整を行ってほしい。		
A	給食指導に栄養士を要請する等、積極的に実施した															
B	給食指導を定期的に行った															
C	給食指導を適時実施した															
				D	給食指導が実施できなかった											
			家庭生活についてのアンケートを実施し分析する。	家庭生活についてのアンケートを実施し分析する。	評規	家庭生活についてのアンケートを実施し分析した			B	3学期に実施予定のためアンケートを作成中。	B					
A	家庭生活についてアンケートを実施し、改善を図った															
B	家庭生活についてアンケートを実施し、まとめた															
C	家庭生活についてアンケートを実施した															
				D	家庭生活についてアンケートが実施できなかった											

評価項目	領域	中期目標	短期目標	成果・取組指標		評価基準：A 良い B やや良い C やや悪い D 悪い	自己評価				外部評価			
				取組指標	成果指標		資料	評価	達成状況	評価	考察	評価	改善策	
⑥ 特別支援教育の推進	自分たちの生活目標を持ち、働くことをいとわぬ自主的態度を持った生徒を育成する。適正な就学指導の推進に努める。通常学級にいるLD、ADHD、高機能自閉症の生徒やその他のさまざまな理由で学習活動に支障がある生徒への支援を行う。(全体)	校内支援体制を整備する。	特別支援教育コーディネーターを中心とする校内研修を実施する。	評規	特別支援教育の校内研修を充実する。			A	伝達研修を一度、手だてを考える会議を3度実施し、T Tや個別指導を充実させた。	A	T Tや個別指導を充実されたことを高く評価したい。T Tにより生徒を授業に集中させる体制ができていることも評価できる。	A	生徒の状況に目を向け、支援の必要な生徒に対して迅速な対応ができるよう基盤整備を行う。	
				A	校内研修をもとに手立てを考え、校内での特別支援を推進した									
				B	資料を用意して、校内研修を数回実施した									
				C	校内研修を実施した									
				D	校内研修を実施しなかった									
		交流教育の推進を図る	明和学級部会を定期的に実施し、情報交換を密に行う。	評規	明和学級部会を定期的に実施し、情報交換を密に行う			B	各学期の始めと終わりに実施した。毎月実施できなかった。	B	各学期の始めと終わりに実施され、情報交換を濃密に行われたことは評価できる。	B	次年度、明和学級の設置はない。	
				A	明和学級部会を定期的に実施した									
				B	明和学級部会を数回実施した									
				C	明和学級部会を一度実施した									
				D	明和学級部会を実施しなかった									
		個別指導を必要とする生徒への支援と家庭学習の深まりを図る。	別紙記載(確かな学力の育成を参照)	評規										
				A										
				B										
				C										
				D										
		就学指導の推進を図る。	養護学校等の連携を深め、適宜情報を収集する。	評規	養護学校等の連携を深め、適宜情報を収集する			A	浜田養護と石見養護の交流会に計画的に参加して生徒の進路を考える上での参考となった。	A	こうした交流は単に生徒の進路を考えるためだけでなく、自分自身の人格の向上にも役立つので重要だと思う。それが計画通り実行できていることは評価できる。	A	次年度、明和学級の設置はない。	
A	養護学校との交流学習に計画的に参加した													
B	養護学校との交流学習に数回参加した													
C	養護学校との交流学習に一度参加した													
		D	養護学校との交流学習に参加しなかった											

評価項目	領域	中期目標	短期目標	成果・取組指標		評価基準：A良い Bやや良い Cやや悪い D悪い	資料		自己評価		外部評価		改善策			
				取組指標	成果指標		資料	評価	達成状況	評価	考察	評価				
														評規	評規	
⑥ 特別支援教育	福祉教育の推進	人間尊重に基盤を置き、体験を通して互いに助け合い合って、明るく住みよい社会をつくるための理解と実践力を育てる。(全体)	福祉に関する知識・理解・心情の育成を図る。	授業や行事などを通して、福祉に関する正しい知識を習得する。		評規 授業や行事などを通して、福祉に関する正しい知識を習得する	52	A	全学年とも1学期の総合的な学習の時間等を通じて福祉体験学習を行い、正しく理解することができる。	A	これからの時代は福祉が重要視されるので福祉体験学習が充実して実施できていることは評価できる。	A	学年に応じた学習内容を見直し年間計画に生かす。			
						A 福祉に関する授業や行事を計画的に実施した										
						B 福祉に関する授業や行事を数回実施した										
						C 福祉に関する授業や行事を1回実施した										
						D 福祉に関する授業や行事を実施しなかった										
			福祉活動に課題を持って解決を図ろうとする生徒を育成する。	別紙記載(総合的な学習時間の推進を参照)	評規											
					A											
					B											
					C											
			福祉活動に積極的に参加する生徒を育成する。	福祉体験活動に積極的に参加できるよう指導する。		評規 福祉体験活動に積極的に参加できるよう指導する	53	B	暑中見舞い訪問等活動記録を利用し、意識の向上を図ることができた。							
						A 活動記録を計画的に点検指導した										
						B 活動記録を活用し、年に数回点検指導した										
C 活動記録を活用し、生徒の活動状況を把握した																
D 活動記録に反省等記入した																
福祉活動に積極的に参加する生徒を育成する。	福祉ボランティア活動に積極的に参加する。			評規 福祉ボランティア活動に参加する。	54	B	各地域、各グループごとに活動を考え夏休み中に実施したが、主体的とまではいかなかった。									
				A 自分なりの考えを持ち主体的に活動に参加できた												
				B 自分なりの考えを持ち友達と共に活動できた												
			C 学校での計画に従って活動できた													
D 活動に消極的であった																
福祉活動に積極的に参加する生徒を育成する。	生徒会本部を中心にボランティア活動を推進する。		評規 生徒会本部を中心にボランティア活動を推進する		D	生徒会本部による活動は実施しなかった。										
			A 計画的に福祉ボランティア活動を実施し、全員が参加した													
			B 福祉ボランティア活動を実施し、全員が参加した													
			C 福祉ボランティア活動を実施し、一部生徒が参加した													
D 福祉ボランティア活動を実施しなかった																

評価項目	領域	中期目標	短期目標	成果・取組指標		評価基準：A 良い B やや良い C やや悪い D 悪い	資料	評価	自己評価		外部評価		改善策	
				取組指標	成果指標				達成状況	評価	考察	評価		
									状況	評価	考察	評価		
⑦ 組 織 運 営	学校運営・校務分掌	学校運営全般にわたって、教職員の個性や特性を生かし、PDC Aの流れにそって教育活動の充実に努める。(要覧)	全教職員参加のもと、明確な学校運営を目指す。	職員会、運営委員会等の会合の有効活用を図る。	評規	職員会、運営委員会等の会合の有効活用を図る			C	3学期に年間計画の作成に合わせて、次年度の職員会年間計画を作成予定。	C	子どもたちに明るく接するために、教職員が明るい雰囲気を作ることをモットーにしてほしい。	C	職員会議を年間の見通しをもって実施する。協議するもの、伝達するものを明確に効率的な運営を図る。生徒指導にかかわる職員会議、職員研修にかかわる職員会議、校務運営にかかわる職員会議を定期的実施する。
					A	改善策をもとに、次年度の具体的な職員会年間計画を作成した								
					B	次年度の職員会年間計画を作成した								
					C	運営委員会・職員会の改善策を作成した								
				D	運営委員会・職員会の改善策が検討できなかった									
				教職員の自己評価で肯定的評価が70%以上しめる。	評規	職員会、運営委員会等の会合の有効活用を図る	55	B	肯定的評価の方が多かったが、活発な話し合いにならないこともある。	C				
					A	自己評価で肯定的評価が70%以上								
					B	自己評価で肯定的評価が60%以上～70%未満								
			C		自己評価で肯定的評価が50%以上～60%未満									
			D	自己評価で肯定的評価が50%未満										
			校務分掌の適正化を図り、効率のよい学校運営を図る。	分掌部会を適宜開き、仕事の内容と分担の明確化を図る。	評規	分掌部会を適宜開き、仕事の内容と分担の明確化を図る			C	今年度は1回しか実施できなかった。必要に応じて担当者同士が話し合うだけであった。	C	教職員数からして、担当者同士の話し合いでも十分に対応できると思われる。	C	分掌部会を職員会議に位置づけ、分掌事務の効率化を図る。また、教職員の平素からの意志の疎通を図り、迅速な事務処理、効率的な校務処理ができる日常体制づくりを行う。
					A	分掌部会を定期的開催し、分掌の内容の明確化・改善した								
B	分掌部会を定期的開催し、分掌の内容を検討・明確化した													
C	分掌部会を開催し、内容を検討した													
D	分掌部会が開催できなかった													
教職員の自己評価で肯定的評価が70%以上しめる。	評規	分掌部会を適宜開き、仕事の内容と分担の明確化を図る		56	C	肯定的評価が50%で仕事の分担化がうまくできていなかった。	C							
	A	自己評価で肯定的評価が70%以上												
	B	自己評価で肯定的評価が60%以上～70%未満												
	C	自己評価で肯定的評価が50%以上～60%未満												
D	自己評価で肯定的評価が50%未満													

評価項目	領域	中期目標	短期目標	成果・取組指標		評価基準：A 良い B やや良い C やや悪い D 悪い	自 己 評 価 外 部 評 価				改善策					
				取組指標	成果指標		資料	評価	達成状況	評価		考察	評価			
														評	規	規
⑨ 保 護 者 ・ 地 域 住 民 等 と の 連 携	学校間の連携	幼・小・中・高の連携を取りながら、学校運営を行う。	福祉・職場体験等での保育所との交流を推進する。		評規	福祉・職場体験等での保育所との交流を推進する			A	1学期の福祉体験活動、2学期の職場体験活動ともに、自己の課題をもって活動に臨むことができた。	福祉体験では、仕事だけでなく人の気持ちを思いやることの大切さにも気づかせてほしい。	A	入学生を対象に小学校と連絡会を3月に実施しているが、入学し生徒の状況がより分かった段階で連絡会を開催し、情報交換をする。また、長期休業時の生活について小中連携のとれた指導を行う。			
					A	課題をもたせ、保育所との交流を推進した										
					B	保育所の交流を継続的に行った										
					C	保育所との交流を行った										
					D	保育所との交流ができなかった										
					評規	小学校との情報交換会を随時開き、お互いの情報交換を密に行う。								B	2月～3月末の入学説明会、小中連絡会しか定期的な交換会はないが、随時情報交換が可能な状況である。	必要に応じての情報交換もよいが、定期的に年2回ぐらいは計画に入っていると思う。
					A	小学校と定期的に交換会を開き、生徒指導に生かした										
					B	小学校と定期的に交換会を開いた										
			C	小学校と交換会を行った												
			D	小学校との交流ができなかった												
			評規	高校との連絡会等で情報交換を密に行う			A	3年部担当が連絡会に、また担任中心に進路先の高校との情報交換を密に行った。また、教科指導(数・英)、生徒指導(学警連)で高校との連携を図った。	高校との連絡会等で情報交換が密に行われ、先進と思う。素晴らしい活動である。特に、数学と英語における教科指導での連携は、高校のない松江地域では画期的な取り組みと考える。							
			A	積極的に高校の連絡会に参加し、情報交換を行った												
			B	積極的に高校の連絡会に参加した												
			C	一部の高校との情報交換を行った												
			D	高校との情報交換ができなかった												
			評規	異校種の情報を取り入れ、生徒・保護者に情報提供する。			別紙記載(進路指導の推進を参照)									
A																
B																
C																
D																

評価項目	領域	中期目標	短期目標	成果・取組指標		評価基準：A 良い B やや良い C やや悪い D 悪い	資料		自己評価		外部評価		改善策	
				取組指標	成果指標		資料	評価	達成状況	評価	考察	評価		
														資料
⑩ 施設	施設・設備の安全、維持管理		施設・設備の点検を計画的に行う。	別紙記載（安全対応能力の向上を参照）	評規									
					A									
					B									
					C									
		施設・設備の点検を定期的に行い、安全な環境づくりに努める。	施設・設備の点検を定期的に行い、安全な環境づくりに努める。	修理・修繕について、早めに対応する。	別紙記載（安全対応能力の向上を参照）	評規								
						A								
						B								
						C								
設 備	施設・設備の効果的な活用		施設・設備の効果的な利用を推進する。	各教室等の利用状況を把握し、効果的な利用計画を作成する。	評規	各教室等の利用状況を把握し、効果的な利用計画を作成する								
					A	各教室の利用状況を把握し、効果的な利用計画を作成した								
					B	各教室の効果的な利用計画を作成した								
					C	各教室の利用状況を把握した								
					D	施設の利用状況が把握できなかった								
					評規	教室・廊下掲示計画を作成する								
					A	教室・廊下掲示計画を作成し、教育環境を充実させた								
					B	教室・廊下掲示計画を作成し、掲示を行った								
	教室・廊下等の教育環境を充実する。	教室・廊下等の教育環境を充実する。	教室・廊下等の教育環境を充実する。	教室・廊下等の教育環境を充実する。	教室・廊下等の教育環境を充実する。	評規	生徒作品等を掲示し、生徒が主人公の環境づくりを推進する							
						A	掲示計画を作成し、生徒の作品による教育環境を充実させた							
						B	生徒の作品による教育環境を充実させた							
						C	生徒の作品を掲示した							
						D	環境づくりができなかった							
						評規	生徒作品等を掲示し、生徒が主人公の環境づくりを推進する							
						A	掲示計画を作成し、生徒の作品による教育環境を充実させた							
						B	生徒の作品による教育環境を充実させた							

- ※1 江津市の共通項目は、領域部分における次の4項目とする。
① 確かな学力の育成 ② ふるさと教育の推進 ③ 安全対応能力の向上 ④ 学校間の連携
- ※2 評価項目と領域との関連は、各学校の重点目標により異なってよい。
- ※3 この評価シートは基本形であり、学校によって項目等の追加・修正を行って使用する。
- ※4 評価の例は、次のように考えられますが、評価指標・学校の実状等に合わせて変更して下さい。
90%以上、70～90%、50～70%、50%以下 又は 良い、まあまあ良い、あまり良くない、良くない

評価項目	領域	中期目標	短期目標	成果・取組指標		評価基準：A 良い B やや良い C やや悪い D 悪い	資料		自己評価			外部評価			改善策
				取組指標	成果指標		資料	評価	達成	状況	評価	考察	評価		